

吉備大臣の活躍

吉備真備 (695～775) はじっさいにいた人物で、高い位をさげられた有名な学者でした。養老元年 (717) と天平勝宝4年 (752) の2度、使者として唐の国 (中国) にわたり、数々の学問を勉強して帰国しました。高い能力をもっていたからでしょう、彼の活躍は、やがて伝説となっていったようです。この絵巻では、中国の皇帝が出すむずかしい問題を、吉備大臣が鬼の助けや不思議な力で次々と解決していくようすが描かれています。

ボストン美術館にある日本美術の中で、もっとも有名な作品のひとつが、この「吉備大臣入唐絵巻」4巻。吉備真備という学者さんが唐の国 (中国) に行き活躍する物語を、絵と文章であらわしています。平安時代12世紀 (約850年前) に描かれた、たいへん古い絵巻で、人々のいきいきとしたすがたや表情、建物や景色の細かい表現、あざやかな色づかいが大きな魅力です。今回の展覧会では4巻すべての場面を見ることが出来ます。

ポイント
3

吉備大臣入唐絵巻

絵巻の見かた

絵巻物は、物語を横長の画面に、文章と絵で表したものです。長い画面のすべてを開くのではなく、肩はばよりやや広いくらいの場面を出して、巻きとることを繰り返しながらストーリーを進めていくのです。

MEMO



4 おなじ手順を繰り返す



3 両手で絵巻をみぎがわうしろに動かす



2 みぎてひだりて右手を左手にみぎがわうしろに動かす



1 ひだりてみぎがわうしろに動かす

画像提供：九州国立博物館

ポイント 3

ポイント
4

画家たちの競演

江戸時代 (約400～1500年) にはさまざまなテーマの絵が描かれるようになり、たくさんの画家やそのグループが活躍して、それぞれの個性を競いました。ボストン美術館には、こうした有名な画家たちの作品が数多く伝わっています。教科書で名前を見たことのある画家も、きつとみつかるとは思いません。探していこう！

ここは、秋から冬への場面ね。金の背景に、あざやかな色で絵がかかれていて、とってもゴージャス！
ごうかな感じは、狩野さんのグループならではの。春と夏の景色も展示室で見られるので、お楽しみに。



等伯さんは、いろんな絵がかけた人。こんな墨一色の絵も大得意！
風や光の感じを、墨だけでとても上手にあらわしているの。わかるかしら？



ポイント 4